

港湾・都市基盤整備推進特別委員会

日時：令和5年3月16日（木）
午前10時
場所：第3委員会室

○ 議 題

- 1 令和4年度 防災対策事業の実績について
- 2 八戸駅前東口広場整備基本計画の概要について

令和4年度 防災対策事業の実績について

1 総合防災訓練

八戸市地域防災計画に基づき、国、県及びその他防災関係機関及び地域住民参加のもと、新型コロナウイルス感染症への対策を考慮した上で、洪水・土砂災害及び地震発生時の応急対策並びに避難行動を迅速かつ円滑に実施できるよう訓練するとともに、防災対策の強化、地域住民の防災意識の高揚を図ることを目的に実施した。

(1) 実施日時 令和4年9月4日（日）8時～12時35分

(2) 実施場所 田向・南類家地区（田向中央公園、消防本部・八戸消防署、
新井田川水防センター周辺、第一中学校）

(3) 主 催 八戸市、八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部、八戸圏域水道企業団

(4) 参加人員 73団体 934名

- ① 吹上地区連合町内会、中居林地区連合町内会、各地区の自主防災組織 等
- ② 第一中学校、吹上小学校及び中居林小学校
- ③ 防災関係機関・団体（陸海空自衛隊、県防災航空隊、災害時協定締結団体等）

(5) 訓練項目

- ① 災害発生時初期対応訓練（情報伝達訓練等）
- ② 洪水・土砂災害・地震からの避難対応訓練（第一中学校等への避難訓練等）
- ③ 地域自主防災訓練（第一中学校での避難所開設・運営訓練等）
- ④ 被災現地災害対応訓練（自衛隊等による不明者捜索、救助・救出訓練等）
- ⑤ 洪水対応訓練（自衛隊による河川横断訓練等）
- ⑥ 避難者対応・受援訓練（福祉避難所への移送訓練等）
- ⑦ 展示・体験訓練（災害時協定締結団体・防災関係機関による展示、防災教育等）



第一中学校での避難所開設・運営訓練



北東北捜索犬チームによる不明者捜索訓練



自衛隊による河川横断訓練



防災教育（弘前大学による防災体操）



防災教育（対ゾンビ訓練）

2 災害図上訓練

(1) 第1回災害図上訓練

八戸市地域防災計画に基づき、災害対策本部従事職員による実践的な対応行動を訓練するとともに、関係機関等との調整・連携方法を確認し、災害対応能力の向上を図ることを目的に実施した。

- ① 実施日時 令和4年11月25日（金）9時～15時
- ② 実施場所 市庁別館2階会議室B・C（災害対策本部事務局の開設・運営訓練）
市庁本館2階庁議室（災害対策本部員会議）
- ③ 参加者
 - ア 災害対策本部員
 - イ 災害対策本部事務局（対策推進班、防災庶務班、避難所班、調整広報班）
 - ウ 防災関係機関（陸海空自衛隊、八戸海上保安部、八戸警察署、八戸消防本部、八戸圏域水道企業団）
- ④ 訓練項目
 - ア 災害対策本部の開設（コロナ禍における災害対策本部の開設等）
 - イ 災害対策本部事務局の運営（救助・捜索に係る関係者調整会議、避難所の運営、

- 自衛隊への災害派遣要請及び県への報告等)
- ウ 災害対策本部員会議の開催（会議の映像配信等）
- エ 避難所通信システム等による情報伝達訓練



(2) 第2回災害図上訓練

八戸市地域防災計画に基づき、避難所に指定されている学校の教職員、当該学校地域の自主防災会及び避難所地区担当の市職員により、避難所運営ゲーム（HUG）を活用した避難所運営訓練を実施し、防災力のスキルアップを図ることを目的に実施した。

【HUG】とは、図上訓練の一手法で、「H_{inanzyo}」「U_{nei}」「G_{ame}」のそれぞれの頭文字を取って名付けられた、ワークショップの技術を活用して行われる災害対応のためのトレーニングで、避難所の出来事や避難者対応をゲーム感覚で模擬体験できる。

- ① 実施日時 令和5年2月8日（水）9時～12時
- ② 実施場所 市庁別館2階会議室B・C
- ③ 参加人員 44名
 - ア 訓練対象校の教職員
 - イ 訓練対象校が所在する地区の自主防災会
 - ウ 市職員（避難所地区担当職員、防災危機管理課職員）

④訓練対象校及び自主防災会

訓練対象校	自主防災会
三条小学校	上長地区自主防災会
長者小学校	糠塚防災会
北稜中学校	八太郎町内会自主防災会、日計町内自主防災会
鮫中学校	鮫地区自主防災会
大館中学校	大館地区自主防災会、花生町内会自主防災・防犯会、中町町内自主防災会



3 その他

(1) 自衛隊との協定に基づく現地確認

八戸市内で大規模な地震・津波災害が発生し、又は大津波警報等が発表された際に、住民等の一時的な緊急避難場所を確保することにより、人的被害の軽減及び生活の安全確保を図ることを目的に、令和2年11月30日に陸上自衛隊八戸駐屯地、海上自衛隊第2航空群と八戸市の三者で締結した「大規模災害時における緊急避難場所等に関する協定」に基づき、自衛隊敷地内の避難経路や一時的な緊急避難場所等の現地確認を実施した。

① 実施日時 令和4年6月30日（木）13時30分～16時30分

② 実施場所 海上自衛隊八戸航空基地及び周辺、陸上自衛隊八戸駐屯地及び周辺

③ 参加人員 55名

ア 多賀地区・根岸地区・下長地区の連合町内会、各地区の自主防災会

イ 臨海部の事業所

ウ 協定締結団体（陸上自衛隊、海上自衛隊、八戸市）

(2) 自衛隊との協定に基づく津波避難訓練

「大規模災害時における緊急避難場所等に関する協定」に基づき、自衛隊敷地内の避難経路や一時的な緊急避難場所、敷地内外の浸水域等を実際に移動することにより、大規模災害発生時の迅速な避難行動につなげ、防災意識の高揚を図ることを目的に実施した。

① 実施日時 令和4年11月2日（水）9時～11時20分

② 実施場所 海上自衛隊八戸航空基地及び周辺、陸上自衛隊八戸駐屯地及び周辺

③ 参加人員 168名

ア 多賀地区連合町内会、多賀地区連合町内会自主防災会、多賀小学校

イ 臨海部の事業所

ウ 協定締結団体（陸上自衛隊、海上自衛隊、八戸市）等

④ 訓練項目

- ア 広報・情報伝達訓練（消防団による事前広報訓練、自衛隊による開門情報等通報訓練）
- イ 避難・避難誘導等訓練
- ウ シェイクアウト訓練



(3) 八戸市防災教育DVDの制作・配布

教育委員会が児童生徒の防災教育で使用している防災ノートとの併用も考慮し、小・中学校及び自主防災組織等の防災教育に資することを目的に制作した。

① 内 容

ア 令和3年度総合防災訓練の映像 30分程度

開催場所：根城地区（長根屋内スケート場、長根運動公園駐車場、根城小学校、総合福祉会館）

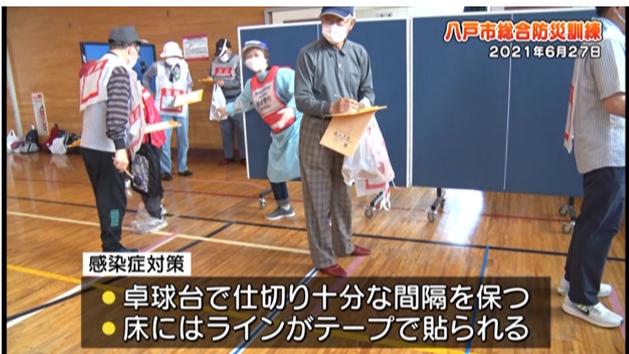
イ 県内の災害に関する映像アーカイブ 8分程度

昭和43年5月	十勝沖地震
昭和50年8月	岩木山土石流災害
昭和58年5月	日本海中部地震
平成6年12月	三陸はるか沖地震
平成23年3月	東日本大震災

② 制作枚数 250枚

③ 配布先 市内小・中学校等の学校施設、市内自主防災組織、関係市町村等





八戸駅前東口広場整備基本計画の概要について

1. 経緯

八戸駅前東口広場は、平成4年度の供用開始から約30年が経過し、施設の老朽化が進み、改修と合わせた機能改善が必要であるとともに、バスと自家用車の交錯や入庫待ち車両の道路へのはみ出しなど、安全面での問題が指摘されている。

平成26年度には、八戸駅前西口広場の整備に向け、学識経験者及び公共交通事業者、八戸駅周辺地区の代表者、交通管理者で構成する「八戸駅前広場整備基本計画検討委員会」を組織し、八戸駅全体における課題整理や機能分担を行った上で意見をとりまとめ、「八戸駅前広場整備基本計画」を策定している。

東口広場の具体的な改善の方向性については、関係機関等と意見交換を継続して参りましたが、平成31年3月に西口広場の整備が完了したこと、さらには東口広場の交通結節点としての機能の重要性が増してきたことから、令和3年度にあらためて「検討委員会」を設置し、検討を進めてきたところである。

2. 検討委員会の状況

令和3年度は会議を3回開催し、委員意見を基に東口広場の課題整理と整備方針の方向性をとりまとめ、令和4年度は「八戸駅前東口広場整備基本計画策定支援業務委託」を実施、これにあわせて会議を3回開催し基本計画をまとめている。

3. 基本計画の主な内容

○バスエリア（広場左側）

- ・駐車場を廃止し、出入口を1箇所に集約した上でバス専用空間化
- ・路線バス方面別バス乗り場の維持や観光バス乗降場の位置変更
- ・ユートリー1階をバス待合所としバスナビゲーションシステムの導入

○タクシー・自家用車エリア（広場右側）

- ・タクシーと自家用車を共存させ、タクシープールの台数見直し
- ・送迎用の自家用車の周回スペースを確保し、出入口を1箇所に集約
- ・屋根付き身体障がい者等乗降用優先スペースを設置

○広場空間（広場中央）

- ・広場スペースを拡張し、各種イベントや憩いの場として活用
- ・わかりやすく統一性のある案内サイン、デジタルサイネージの導入検討

4. 今後の予定

令和5年度	関係機関との協議
令和6年度以降	実施設計、整備工事を実施

○八戸駅前東口広場の現況



○八戸駅前東口広場整備イメージ

